

J25b **MAXI/GSC で観測した Be 型連星 X 線パルサーの X 線強度変動**

中島基樹(日本大学)、三原健弘、杉崎睦、小浜光洋、中川友進、山本堂之(理研)、上野史郎、松岡勝、川崎一義、富田洋、鈴木素子、石川真木(JAXA)、森井幹雄、杉森航介、河合誠之(東工大)、上田佳宏、磯部直樹、江口智士、廣井和雄(京都大)、根来均、石渡良二、三好翔、小澤洋志(日本大)、常深博、木村公(大阪大)、吉田篤正、山岡和貴、中平聡志(青学大)、山内誠、大休寺新(宮崎大)、ほか全天 X 線監視装置チームほか MAXI team

本講演では、2009 年 8 月より運用を開始した全天 X 線監視装置 MAXI 搭載の GSC 検出器で観測した、5 個の Be 型 X 線連星パルサーの 7 ヶ月に及ぶ観測データの解析結果について報告する。

MAXI は国際宇宙ステーションの日本の船外実験プラットフォームに搭載された観測装置で、全天を約 96 分おきに 0.5–30 keV の広いエネルギーバンドでスキャンすることができる。MAXI のその特筆すべき特徴の一つに、少ない観測制限が挙げられる。他の X 線観測衛星では、対象とする天体の近傍に太陽が位置する時期には観測不可能となってしまうが、MAXI では太陽離角が 5° の天体も観測することが可能である。この特徴を生かして、数多くの X 線トランジェント天体の継続的なモニタ観測が行われ、これまでに多くの観測成果を出してきた。

MAXI により観測されたトランジェント天体の一つに Be 型 X 線連星パルサーがある。Be 型 X 線連星パルサーには、パルサーが主星を取り巻くガス円盤を横切る際に、ひじょうに明るいアウトバーストを示す特徴がある。MAXI はこれまでに幾つかの Be 型 X 線連星パルサーのアウトバーストのその立ち上がりから、アウトバーストが収束するまでの全てのフェイズをほぼ連続的に捉えることに成功している。本講演では、2009 年 8 月以降にアウトバーストを起こした Be 型 X 線連星パルサー、A0535+262、GX304-1、GRO J1008-57、V0332+53、2S1417-624 の光度曲線、color-color diagram 等を示し、各アウトバーストの特徴についての議論を行う。